

# vs 鹿屋体育大

## Match Preview

### 初戦の固さを払拭し、攻撃陣が爆発するか

一発勝負のトーナメントで、何よりも大切になってくるのは先制点だ。全国大会の初戦であり、固い立ち上がりとなることが予想されるが、守ってばかりはいられない。得点を取るために、攻撃陣の奮起が必要となる。

中心を担うのは MF 湯澤洋介(4年)だ。切れ味鋭いドリブルで、相手を翻弄するのが特徴。カウンター時の起点ともなり、そのスピードは駒大にとっての大きな武器、相手にとっては脅威となる。ここまでリーグ4ゴールはチーム最多、駒大の浮沈のカギを握っているといっても過言ではないだろう。

リーグ戦ではここ2試合で5得点。今シーズンはカップ戦を含め未だ無得点試合がない。そういった意味では、実力さえ発揮することが出来れば、ゴールを決めることは可能なはずだ。しかし舞台は全国という大舞台。雰囲気にもまれてしまってはならない。いかに自分たちのサッカーを体現し、立ち上がりから、普段通りの動きをできるかがポイントとなる。



湯澤は持ち味のドリブル突破を見せられるか

### 許してはならない先制点、ゴールに鍵をかける



トーナメントで取られてはならない先取点。しかし、リーグ戦では2試合合計で6失点、ともに先制点を奪われる展開と、苦しい戦いが続いている。どちらも得点を許してしまったのは前半早い時間帯であり、試合開始直後から集中した守備が求められる。

ディフェンスリーダーとして活躍するのは、主将の DF 三澤祥馬(4年)だ。上背こそないが、高いカバーリング能力でディフェンス陣を牽引している。チームにとっては欠かせない存在であり、柱としても安定したパフォーマンスを発揮して欲しい。

駒大のディフェンスの特徴といえば、前線からのプレスがある。ハードワークでボールを奪いに行くことで、カウンターまでつなげている。守りから攻めへと、スムーズな流れが出来ていれば、それこそが目指している形。良い攻撃を生み出すためにも、まずは良い守備から。やらなければならないことを徹底してほしい。

キャプテンとしてもチームを引っ張る三澤

### 九州の雄、鹿屋体育大学

対する鹿屋体育大学は、九州の強豪だ。過去に九州リーグ7連覇を達成したこともあり、強さを誇っている。総理大臣杯では過去最高ベスト8。全国レベルの強敵であり、いまだ成し遂げたことのない全国制覇を、虎視眈々と狙っている。

とはいえ駒大の最高記録は大臣杯優勝。最近では2年前に優勝を果たし、今回はその再現に燃えている。だが今大会は2部という立場の出場であり、ある意味では挑戦者として戦うことになる。失うものは何もない、全力全開で試合に臨んでほしい。

駒大が目指すものは全国優勝、自分たちの強さを知らしめること、それに尽きる。そのためにも初戦で黒星を喫するわけにはいかない。わずか1校に与えられる歓喜の瞬間を味わうまで、勝ち続けることが必要だ。まずは1回戦突破へ、赤黒の勇者が大阪の地で躍動することが出来るか。

(紙面編集:森下和貴)



中盤の要確井鉄平(2年)彼の出来次第で、攻守に影響が出る。ベストな状態で臨んでほしい